

10月 図書コラボ献立 【1つぶのおこめ】

「1つぶのおこめ」から、お米（5年生が収穫した**新米**）を紹介します。この本は、算数のお話です。

むかし、インドのある地方にひとりの王様がいました。その地方には、お米を作る人たちが暮らしていました。

しかし、とれたお米のほとんどは、王様がいただいていた。『飢饉の時は、しまっておいた米を みんなに分けあたえる。』と 王様は、約束していました。何年もの間豊作が続き、王様の米蔵はどれも いっぱいになりました。

ある年、飢饉がやってきました。約束どおり大臣たちが王様に、米蔵のお米を人々に分け与えて下さいと頼みました。

すると王様は『飢饉は長く続くかもしれん。蓄えた米はわしのためにとっておかなくては。』と、お米を分け与えようとはしませんでした。

ある日、その王様が自分と家来のために、宴会を催すことにしました。1頭の象がお米をどっさり入れたかごを2つ、米蔵から宮殿へ運んでいく途中ひとつのかごから お米がこぼれ落ちているのに気付いたかしこい村娘のラーニがお米をスカートで受けました。

ラーニは、このお米を王様に届けます。『ほうびをあげよう』という王様にラーニは、『きょうは お米を1つぶだけください。』

そして、30日のあいだ、それぞれ 前の日の倍の数だけお米をいただけませんか？あしたはお米を2つぶ、明後日はお米を4つぶというように。』

『ささやかなものだわい。確かに、聞き入れたぞ。』王様はそう言って、ラーニにお米を1つぶくれました。

そのお米は、9日目になると256つぶになりました。12日目になると2048つぶもらいました。そして30日目には。。

王様の米蔵は 空っぽになってしまいました。

王様が ラーニに この お米をどうするつもりか尋ねると、ラーニは『王様にも、かご1つぶんだけ さしあげてもいいですよ。もし、王様が、けちな心を入れかえてくださるならね』と言いました。

それからと言うもの、王様は賢くて正しい行いをするようになりました。

王様と呼ばれるのにふさわしい、ほんとうの王様になったのです。

この本は、図書室にありますので、ぜひ読んでください。



令和4年10月5日（火）

【新米の炊き方】

材料

4人分量

作り方

米

2合

①はじめの水は素早く捨ててすすいでから洗米する。

水

450ml

特に新米は米粒がやわらかいので、洗いすぎは禁物。
短時間でやさしく洗う。



新米



②普通に炊いてみてベタつきが気になる時は、水加減は少なめにする。1合あたり大さじ1程度水を減らす。

③新米の吸水時間はやや短めにする。浸水後は5分程度ざるで水をきる。

④粘りが出やすいので、通常よりも高火力・短時間で炊き上げる。早炊きモードがよい。

⑤蒸らし時間は短めにする。